

経営協議会学外委員からの意見及び対応について

開催日	項目	出された意見	大学側の対応
平成26年4月23日	平成26年度 年度計画について	国家試験合格率95%以上など数値をもって目標を明確化されているが、他の項目においても数値をもって目標を定められたいとの意見があった。	本学では、中期目標・中期計画と連動した滋賀医科大学評価指標を定め、平成25年度実績、平成26年度目標について、平成26年6月および7月の経営協議会に提出したところです。
		新聞等で報道されているSTAP細胞の件も踏まえ、研究倫理をリスク管理として捉えて推進されたいとの意見があった。	平成25年4月にコンプライアンス委員会を設置し、昨年度に引き続き今年度も、コンプライアンスに関する各種研修を実施しているところです。「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」が平成26年8月26日に改訂され、平成27年度からの適用に向け、平成26年度中に研究倫理教育を中心とした研究活動の不正行為防止計画を構築します。
平成26年6月11日	平成25年度決算について	財務状況について、より一層広く知ってもらうようにとの提言があった。	活動実績ダイジェストについて、県内の行政機関、医療機関や報道機関等に送付していますが、ご意見を踏まえ、送付先に県議会を加え送付し、平成26年10月挙行しました開学40周年記念式典においても配付しました。
	平成25年度実績報告書について	報告書といった書面だけでは滋賀医科大学の教育研究がイメージできないので、見学等の機会を設けて頂きたい	平成26年7月の経営協議会において、動物生命科学センターの見学を実施しました。
		大学の規模から、運営は資源の集中が必要と考えられること、そのシステムや体制構築が重要であること、また、大学が努力していることを広く知って頂くことが重要である	本学の機能強化、改革支援を主眼とした事務組織体制を構築する観点から、事務組織の見直しについて現在検討を行っています。研究等の成果発表については、プレスリリースに努めており、活動実績ダイジェストについては、前述のとおりです。
	平成25年度コスト構造改革の実績および平成26年度計画案について	平成26年度診療報酬改定と平成26年4月の消費税増税は本学のような急性期病院の経営にとっては厳しいと思われることから、今後更なる消費税増税を視野に、建物や医療器械の更新等を計画されたい	建物については、病院再開発を終え、維持保全を進めていくために施設設備修繕計画を策定しています。中長期的な視野に基づき主要設備の修繕や更新を計画的に実施していくとともに、新たな診療や病院機能に対する施設のニーズに対しても柔軟な対応を実施していくことが必要です。医療器械については、医療機器マスタープランによる計画的な更新を行うとともに、平成25年度から、機器装置等の導入後の検証作業を行い、過剰な投資やムダを無くすようにしています。これらの経費を計画的に予算化できるよう予算全体の見直しを進めたいと考えています。
医学部附属としての病院の使命を念頭に、600床規模の病院として収入の最適化の検討をされたい		県内唯一の特定機能病院・大学病院として、高度な医療の提供とともに、最後の砦として、地域に根差した病院であり続けるため、安定した収入の確保は重要と考えています。600床規模の大学病院のなかでは、収入は最上位にありますが、一方、医師、看護師数が多い状況にあり、収入の確保とともに人件費の最適化が必要と考えています。また、収入について、心臓血管・循環器系の診療科に依存していますが、他にも牽引となる診療科を作ることを今後の課題としています。	

経営協議会学外委員からの意見及び対応について

開催日	項目	出された意見	大学側の対応
平成26年10月29日	平成26年度財務状況等（上半期）について	財務状況は大学の活動に対する結果的なものであり、大学で設定されている評価指標のうち関連する事項を、事務的に負担とならない範囲で併せて紹介されたい。	平成27年1月28日経営協議会、平成26年度財務状況等（第3四半期）についての資料に記載いたしました。
平成26年11月26日	平成26～28年度の収支計画について	<p>支出について、病院の人件費の増といった説明があるが、資料からは病院の収支状況が読み取れないので、管理会計等の考え方をベースに作成されたい、また、大学病院の使命として、不採算である診療も行わなければならないことは理解できるので、その説明のためにも病院の収支が分かるように資料を作成されたい。</p> <p>資料は予備費が少ないなど先行きが暗い話となっているが、大学として進むべき方向などといった希望も示されてはいかかが。</p>	<p>大学附属病院は、民間病院とは異なり、教育・研究・診療の各業務を行っており、診療部分だけの明確な算出は困難な面もありますが、収支のセグメント別の分析や原価計算を通じて、収支改善を図ることとします。なお、平成28年度導入予定のHOMAS II（国立大学病院管理会計システム）を活用し、より収支改善に資する資料を作成します。</p> <p>第3期中期目標期間に向けて、本学としての特色や強みを伸展し、本学の存在感をさらに高めていきたいと考えています。そのための様々な取り組みのためにも収支の改善が課題です。</p>